

企業ニュース 古野電気

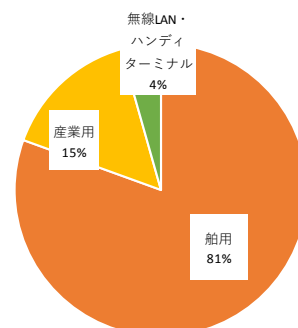
(東証1部: 6814) <https://www.furuno.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

船用電子機器メーカー

1938年、古野電気商會を創業、船舶の艤装工事などを請け負った。1948年、軍の放出物質であった音響測深機を改良し魚群探知機の実用化に成功（世界初）した。同年、古野電気工業所（合資会社）に改組、魚群探知機の製造販売を開始した。1955年、古野電気設立。魚群探知機の他、様々な航海機器や通信機器の開発・販売を行ってきた。漁船向けから、現在では大型商船からプレジャーボートなど広範囲にわたる様々な船舶に機器を提供している。さらに船舶用電子機器で培った技術をもとに医療機器（生化学自動分析器など）やGPS・ITS（高度道路交通システム）機器（衛星測位システム基準周波数発生装置、ETC車載器など）などの情報通信分野（産業用事業セグメント）へ展開。その他、教育分野向けなどに無線LANアクセスポイントなども提供している。

◇19.2期売上高構成比



(出所) 古野電気資料よりCAM作成

20.2期の会社計画はリスク要因を織り込んだ計画

19.2期の連結業績は売上高が821億円、前期比4%増、営業利益が48億円、同140%増。主力の船用事業が主要地域で伸長した。商船新造船向けは低調だが漁船向けの需要が堅調に推移した。換装向け（機器更新）拡大が増益率を高めた。世界的に食糧需要は増加するが、漁業資源は沿岸部での減少が顕著、魚価の高騰もありより高性能な漁船へのニーズが高まっている。生産効率改善や、システム償却負担軽減なども利益貢献した。産業用事業はヘルスケアの減収を通信・GNSSソリューションの拡大で補えず、無線LAN・ハンディターミナル事業は無線LANアクセスポイントが堅調に推移したがハンディターミナルの低迷で減収減益。

20.2期の会社計画は売上高が820億円、前期比ほぼ横ばい、営業利益が40億円、同16%減。船用事業における経営環境に大きな変化はないが、為替、品種構成悪化などのリスク要因を織り込み、減収減益の計画。一方、無線LAN・ハンディターミナル事業ではハンディターミナルの販売回復、教育現場向けにアクセスポイントの拡販を見込んでいる。

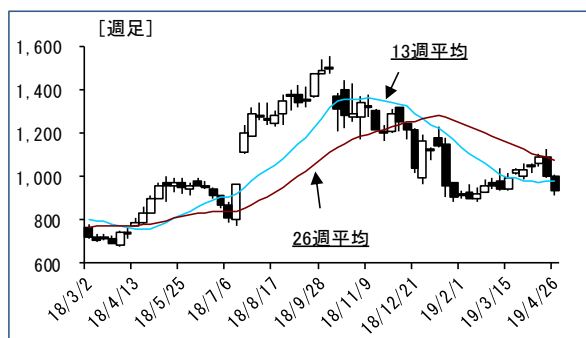
[株価動向・投資判断]

底堅い換装需要の継続が業績を下支えしよう。収益性の改善も評価したい。足元の株価水準はPERで1桁台と割安感のある水準。中期的な利益成長に伴う株価上昇を期待したい。

<6814 古野電 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.2	79,050 (0)	1,992 (30)	1,857 (27)	1,236 (▲ 2)	39.3	10.00
19.2	82,108 (4)	4,771 (140)	5,112 (175)	4,026 (226)	127.8	記25.00
20.2 予	82,000 (▲ 0)	4,000 (▲ 16)	4,000 (▲ 22)	3,000 (▲ 26)	95.2	20.00



[主要株価指標] (売買単位 : 100株)	
株価 (2019/4/26)	934 円
年初来高値 (高値日)	1,232 円 (19/1/8)
同 安値 (安値日)	880 円 (19/1/24)
予想 P E R (20.2 予)	9.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,307.2 円
P B R	0.71 倍
予想配当利回り	2.14 %
(1株当たり配当金年20.00円)	
R O E (19.2)	10.1 %
発行済み株式数	3,189 万株